

中高の英語教員を志す学生のための英語の基礎知識

—「教職基礎研究」(基礎ゼミ)での試みをもとに—

萩原 一郎

1. はじめに

今年度、英語英文学科の久保野雅史教授が在外研究に出られるということで、先生が担当されている「教職基礎研究」(基礎ゼミ)を担当させていただくことになった。中高の英語教員を目指す学生のための授業で2年生で履修し、その後、「教職専門研究」(3年次)「卒論論文」(4年次)へとつながる初年度のゼミである。全体像を示すために、以下に授業の到達目標、授業内容、教科書、参考書についてシラバスから引用する。

【到達目標】

本授業(英語教員養成特修ゼミ)の到達目標は、英語英文学科のディプロマ・ポリシーに基づき、受講生が、①中学生・高校生に授業で英語を教えるために必要な、英語についての基礎知識を身につけること、②教えるために必要な、英語運用力の基礎を身につけること、③授業を英語で進めるに足る発音の正確さを身につけることである。

【授業内容】

教職課程を履修し英語教員を志す学生のための、英語教育「実践学」の入門コース。実践力のある英語教員になるための基礎力を3年間かけて身につけるための1年目に相当する。「英語科教育法Ⅱ、Ⅲ」での模擬授業、「教育実習」そして「教員採用試験」に対応するために必要不可欠な英語力(文法力、語彙力、音声表現力)、教材分析力、参考資料の活用などを演習形式で高めていく。(後略)

【教科書】

土屋澄男(2004)『英語コミュニケーションの基礎を作る音読指導』研究社
『英検2級 文で覚える単熟語 [三訂版]』旺文社 2013
卯城祐司他(2021)文部省検定済教科書 *ELEMENT English Communication I*
啓林館

【参考書】

中邑光男(2019)『アクシスジーニアス英和辞典』大修館書店
学習英和辞典(電子辞書以外)を各自で用意すること。

本稿で紹介するのは、上記の『英検2級 文で覚える単熟語 [三訂版]』を使った授業内容である。本単熟語集はテーマ別に見開きで構成され、左ページに100～150語程度の短い英語の文章、右ページにその文章で使われている15程度の単熟語とその日本語訳が掲

載されている。授業では最初に、右ページに載っている単熟語について、日→英で単熟語を書く小テストを行った。次に、教員を目指すにあたって、どのような知識を身につけておくといいか、また、中高生（主に高校生）に質問をされた場合にどのように回答するといった視点で、私が左ページの文章から語彙、文法、発音などについての質問を与え、学生に答えてもらったあとに、私が解説を加えたり、参考文献を紹介したり、参考になる記述をコピーで配布し、読み合うなどした。

以下、授業で扱った膨大な質問の中から一部を紹介していく。

2. 語彙について

語彙には2つの側面があり、「語彙の広さ」(breadth)とは、たくさんの英単語を知っていること、語彙力を量ではかるものである。一方、「語彙の深さ」(depth)とは、それぞれの単語について、使い方などさまざまなことを知っていることで、語彙力の質をはかるものである。語彙指導の第一歩は単語のスペリングとその意味を一致させることだが、それだけでは発信語彙とはなり得ない。単語を習得するには、さまざまな知識が必要で、語源、接辞の情報、文法制限、コロケーション、連想、例文などさまざまな要素があり、語彙を深く知ることが発信につながる。以下の質問は、「語彙の深さ」に焦点を当てたものになっている。

2.1 日本語とのずれ

日本語のカタカナ語に引きづられてしまうのは、母語干渉ということではどうしても避けられないことである。そこで、語彙指導をする際には日本語の意味とどのような点で異なっているかに焦点をあてて教えると効果的である。実際の教室場面では辞書指導を取り入れていきたい場面である。

① application を英語で省略するというようになるか。

・ an **application** on a smartphone¹ (40)

【解説】日本語では「アプリ」と略することが多いが、英語では**app**と言う。

② local と「ローカル」のちがいを説明しなさい。

・ Its trees will provide **local** people with wood and other materials. (22)

③ pick up と「ピックアップ」の違いについて説明しなさい。

・ Prisoners can buy a JP3 player and **pick out** songs with the money that family members deposit into a spending account. (50)

④ ground に関して。「学校のグラウンド」は何と言うか。

・ Landslides can occur, for example, when the **ground** becomes disturbed.... (68)

¹ 本文中の用例は基本的に『英検2級 文で覚える単熟語 (三訂版)』から引用している。用例のあとにある数字は同書のページ数を示す。

【解説】②local ①その土地の、地元の、現地の《◆都会に対する「田舎」の意は含まない》^{いなか}

③pick out [他] (1) 〈物・人〉を選び出す (select) 《◆この意味でpick upは不可》
(以上、『アクシスジーニアス英和辞典』)

「旬の果物をピックアップしてお届けします。」などと言うことがあるが、この意味での「ピックアップ」はpick outに相当することが多い。

④「学校のグラウンドは英語ではfieldと呼ばれる。具体的に、football field, baseball field などということが多い。／ school groundsというのは校庭という意味ではなく、学校の敷地（建物を含む）を指す。／ playgroundは（遊び道具のある）小学校の運動場か、公園（park）の滑り台、ブランコなどの子ども向けの遊び道具がある一角をいう。」

(柏野, 2010, pp. 522-523)

⑤sooner or later「遅かれ早かれ」のように英語と日本語で語順が異なるものをあげなさい。

・ Sooner or later the river water filled the area.... (76)

【解説】black and white（白黒）、supply and demand（需要と供給）など。

2.2 多義語

複数の意味をもつ多義語に関しては、その語義のうちいくつかが既習となった時点で、意味のつながりを示す指導法が有効である。該当語が初出であるのに、たくさんの意味を示して暗記させるという方法は避けるべきである。（『アクシスジーニアス英和辞典』では「語義ツリー」として、原義からどのように意味が発展しているか語義のつながりを図示している。）

⑥runにはなぜ「走る」と「運営する」(run the project)の意味があるのか。2つの意味に関連はあるのか。

【解説】run the project（この事業を走らせる→この事業を動かす→この事業を運営する）

⑦trainに「電車」と「訓練する」の意味があるが、どういうつながりがあるのか。

【解説】語源はラテン語の

2.3 接頭辞, 接尾辞

接頭辞, 接尾辞について知識を得ることで、語彙力の増強を図ることができる。同じ接辞をもっている語がいくつか出てきた段階で、それをまとめてあげるとよい。特に、基本的な語彙力が身につけていることが期待される高校中級から上級では有効な方法である。

⑧inconvenience以外にin-をつけて否定語になる例をあげなさい。in-はどういうときに, il-, im-, ir-に変化するのか, 例を挙げながら説明しなさい。

- ・ This **inconvenience** may soon change, however. (42)

【解説】 **in**formal (形式ばらない), **in**dependent (独立した), **in**justice (不公平) など。

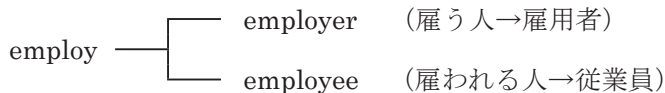
後続する語の先頭の音による影響で、接頭辞in-の/n/の音が変わる「逆行同化」によるものである。

- ・ lではじまる語 **il**legal (違法の)
- ・ p, b, m (両唇を使って出す音ではじまる語)
imbalance (アンバランス), **im**possible (不可能な), **im**moral (不道德な)
- ・ rではじまる語 **ir**regular (不規則な)

⑨ employer と employee のように対になる例を挙げなさい。-ee の意味と強勢の位置について説明しなさい。

- ・ This is a fantastic investment for large companies to train **employees** efficiently. (120)

【解説】 接尾辞 -er は「～する人」、-ee は「～される人」を表し、その音節に強勢が置かれる。-ee は「元々フランス語の過去分詞形の [-è] に由来し、英語の発音では /i:/ となり、潜在的に〈受身〉の意味を担う」。(西川, 2021, p. 102)



他にも、interviewer (面接官)、interviewee (面接受験者) などがある。

⑩ endangered の語の成り立ちについて説明しなさい。

- ・ kill the **endangered** deer (74)

【解説】 接頭辞 en- は名詞につけて、「～する」という動詞をつくる。この場合、endangered と過去分詞になっているため、「危険にさらされた→絶滅の危機にある」という意味になる。単熟語集に載っている「絶滅の危機にある」という語義が生まれる過程を生徒と確認したい。

2.4 語源

単語の語源を紹介することで、いわゆるトリビア的知識を得ることができ、単語指導に潤いと楽しさを与えてくれる。高校の英語の先生が breakfast の語源を雑談の中で語ってくれたことから、それまで嫌いだった英語に興味をもつようになったという方のお話を昨年うかがい、意を強くした。英和辞典の中にも、「原義」などとして該当語の語源を紹介している場合があるので、辞書指導と連動しながら指導したい。

⑪ disease の語源を説明しなさい。

- ・ cause cancer and other **diseases** (26)

⑫ concentrate の語源を説明しなさい。

- ・ As a result, employees **concentrate** better.... (44)

⑬ company の語源について説明しなさい。

- ..., most **companies** make do with a fake fragrance.... (74)

【解説】

⑪ **disease** 【原義：安楽 (ease) でない (dis)】

⑫ **concentrate** 【原義：共に (con) 中心 (cent) に集める (ate) → 中心へすべて集める】

⑬ **company** 【原義：共に (com) パンを食べる (pan) 仲間たち (y)】

(以上、『アクシスジーニアス英和辞典』より)

2.5 熟語、句動詞

熟語や句動詞の中にはそれを構成している語の意味を組み合わせることで意味を推測できるものも多い。そのような場合、熟語の意味を丸暗記させるのではなく、どうしてその意味になるのかという指導過程を組み込むことが生徒の理解を深める。

⑭ put off ～を put と off の意味を使ってなぜ「～を延期する」という意味になるのかを説明しなさい。

- **put off** a final decision until more studies have been done (20)

⑮ above all はなぜ「何よりも」という意味になるのか。また、above all は英英辞典ではどう定義されているか。

- ...But **above all**, a person can analyze a sample in around 25 minutes with ease and little training. (42)

【解説】

⑭ put off A で「A を離れたところに (off) 置く (put) → A を延期する」の意味になる。

⑮ above all で「すべて (all) の上に (above) → 何よりも」の意味になる。

above all (else) (= used to say that something is more important than anything else)

- Max is hard-working, cheerful, and **above all** honest. (*LDOCE*)

⑯ take it for granted that... がなぜ「…を当然と思う」という意味になるか説明しなさい。

- Most of us **take it for granted that** we can move our bodies with little thought. (52)

【解説】 **take A for B** : to consider somebody/something to be somebody/something, especially when you are wrong (A を B だと思う)

- Even the experts **took** the painting **for** a genuine Van Gogh. (*OALD*)

grant : to admit to somebody that something is true, although you may not like or agree with it (～だと認める) (*OALD*)

→ **take it for granted that...** (…が認められていることだと思う → …を当然と思う)

2.6 句読点

⑰ — (ダッシュ) はどのような意味を表すか。

- ・ a gap year — a year's break between high school and college (158)

⑱ The soup's Italian name, *minestra maritata*, ... (182) なぜ *minestra maritata* は斜体字になっているのか。

【解説】 主要な句読法 (punctuation) の名称とその使い方について、習熟しておきたい。高校の教科書では巻末に紹介されていることが多いが、意外と盲点である。— (ダッシュ) は言い換えや要約を示す。英語以外の言葉は、イタリック体 (斜体字) にして外来語であることを示す。手書きの場合は下線を引くというルールも高校生に紹介しておきたい。これ以外にも、直前の内容を詳しく説明する：(コロン) など代表的なものは確認しておきたい。

2.7 コロケーション

⑲ **meet** the needs (ニーズを満たす) 以外に **meet** の目的語になるものをあげなさい。

⑳ **face** a problem (問題に直面する) 以外に、「face + 名詞」のコロケーションをあげなさい。

㉑ **conduct** research (調査を行う) 以外に、**conduct** はどのような目的語をとるか。

【解説】 「動詞 + 名詞」のコロケーション (collocation) としてチャンクで定型表現を覚えることは英語を話したり、書いたりするなどの発信活動で役に立つ。授業では、**Just The Word** という website を利用し、コロケーションについて調査する方法を学んだ。

⑲ meet need について、meet requirement, meet demand が多く使われる。

㉑ face a problem について、face difficulties, face a crisis が多く使われる。

㉑ conduct survey, conduct study の次に conduct research が続く。

2.8 その他

㉒ everyday と every day の使い方の違いを例を挙げながら説明しなさい。

- ・ In search of a way to use **everyday** roads as a way of making energy, (14)

【解説】 everyday は形容詞 (一語), every day は副詞 (二語) として使われる。

Everyday is an adjective meaning 'ordinary', 'usual', 'routine'. It is not the same as the adverbial expression ***every day***. Compare:

- ・ In ***everyday*** life, you don't often find an elephant in a supermarket.
- ・ You don't see elephants ***every day***. (*PEU*)

㉓ safe and sound に見られるように語頭の音をそろえる技法を何というか。他にどのような例があるかあげなさい。

- ・ In fact, since animals had so few opponents for such a long time in New Zealand, they felt **safe and sound**. (82)

【解説】 alliteration (頭韻) という。英語の詩や歌などで多用される脚韻 (rhyme) ほど使用例は多くないため、学生は意外と知らない。これ以外の代表的な英語の rhetoric (修

辞法) についても、学生時代に学んでおきたい。以下は映画の登場人物名の例。

アメリカの生んだヒーローの1人、スーパーマン (Superman) は新聞記者に身を隠し、**Clark Kent** (クラーク・ケント) と名乗っている。彼のガールフレンドは **Lois Lane** (ロイス・レイン) で、彼女の妹は **Lucy Lane** (ルーシー・レイン) という設定である。それぞれ頭韻を踏んでいることに注意。(岩崎・忍足・小島, 1988, p. 417)

3. 文法・文構造について

3.1 文法・文構造

① help keep... となぜ動詞が二つ続いているのだろう。

- The Great Green Wall is intended to reduce damage from the sandstorms blowing off the Sahara and to **help keep** the soil stable and fertile. (22)

【解説】高校生は動詞 (の原形) が続いているのに疑問をもつ可能性がある。このように、生徒が抱くであろう疑問点や多くの生徒がつまずくと思われるトラブルスポットを予測し、説明する箇所を見分ける力が英語教師には求められる。help に関しては、『中学校学習指導要領 (平成29年度告示) 解説 外国語編』で

d [主語＋動詞＋目的語＋補語] のうち、

(b) 主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞

- I helped my father wash the car.

という文構造が新たに指定されているが、I helped wash the car. という形は中学校では学習していない未習事項である。中学校で学んできた (既習の) 文構造と結びつけながら説明することが求められる。

② 分詞が一語の時は「分詞＋名詞」(barking dogs) となるはずだが、なぜ the collected energy とならないのか。

- The company expects that **the energy collected** can be used to power electrical vehicles and even homes. (14)

【解説】高校生用の参考書では、分詞が名詞を修飾する場合、分詞が一語のときは前から、分詞が他の語句を伴う場合は、後ろから修飾すると記述されていることが多い。生徒にルールを教えるときは、このように簡潔にまとめてかまわないが、大学生としてはもう一歩高度な知識を身につけておきたい。上の英文では、the energy collected となっており、ルール通りになっておらず、生徒に質問されたら答えられる知識をもってほしい。安藤 (2005) は「名詞の『一時的な状態』を表す分詞は、修飾する名詞のあとに置かれる」(p. 234) とし、以下のような例をあげている。

- The classification **adopted** (= which has been adopted) has lots of advantages. [~~The adopted classification~~] (採られた分類法にはたくさんの利点がある)
- The people **questioned** (= who were questioned) gave very different opinions.

[The questioned people] (質問された人々は、ひどく異なる意見を述べた)

③ any と some の使い分けについて説明しなさい。

・ This (=light pollution) refers to **any** negative effect of artificial light on the environment. (28)

【解説】私が英語を学んだときには、someは肯定文、anyは否定文・疑問文で使うと習い、someを含む肯定文から否定文・疑問文への書き換え練習などをやらされた記憶がある。大学で英語科教育法を担当されていた安田一郎先生が当時、NHKの「続基礎英語」の講師をされており、先生の「番組聴取者の中高生から届く質問のうちもっとも多いのはsomeとanyの使い分けに関するものである」という話も強く印象に残っている。私が高校で教えていたときには、以下の説明を使い、具体的な英文にたくさん触れさせる中でニュアンスをつかませるようにしていた。否定文・疑問文でのsomeの使い方、肯定文でのanyの使い方など細かく分類するのではなく、ざっくりとまとめる方が生徒には分かりやすい。

I shall here make a statement that is meant to be suggestive only. It is meant to act as a guide, **not** as a rule. The word 'some' implies that there is a LIMIT: (ママ) the word 'any' implies that there is NO LIMIT. 'Some' suggests DEFINITENESS: 'any' suggests INDEFINITENESS. (キーン・松浪, 1969, p. 4)

④ which の前になぜコンマがあるのだろう。

According to Gerhard Knies of the Desertec Foundation, **which** is running the project,... (30)

【解説】先行詞のthe Desertec Foundationは固有名詞であり、特定の財団名を指しているため、いくつかある財団から限定用法を使って範囲を絞り込む必要がない。従って、非限定用法となり、関係代名詞の直前にコンマが置かれる。江川(1993)には、「(a) 初めから特定されている人/物、(b) 固有名詞、(c) 生物や無生物を総称する名詞には自動的に非限定用法の関係代名詞だけが使われる」とある。(p. 78)

⑤ once の使い方について説明しなさい。この場合のonceの品詞はどうやって判断したらいいかを説明しなさい。

・ **Once** it goes on the market, this invention will significantly bring down stress levels of disabled travelers who have trouble transporting their luggage. (40)

【解説】高校の英語授業で英文の構造を教師が説明するとき、「このonceは接続詞だから、『いったん〜すると』という意味になる」というように、すべてを説明してしまうことがよくある。生徒に身につけさせたい力は、語句の品詞が何であるかを生徒自らが判断できる力であり、そうした力を身につけないと、英文を文頭から正確に読み下すことができるようにはならない。ここでは、接続詞の二つのパターンに注意させる。ここはもちろん、(1)の例。

(1) 接続詞 S + V..., / S + V....

(2) S + V... / 接続詞 S + V....

⑥受動態が使われている理由を説明しなさい。

- ・ Another effective way to save energy is to put material inside the walls of a house so as to keep heat from escaping. This answer, too, was given by very few people. (24)

【解説】英文では、「旧情報 (given information) → 新情報 (new information)」の順で情報を提示することが原則であり、こうすることで読者が読みやすい英文となる。下線部の英文では、前の英文全体を受けた This answer (旧情報) を主語に置き、very few people を新情報として文末に配置している。もし、この英文を能動態を使って、Very few people gave this answer. とすると、「新情報→旧情報」という配置になり前文とのつながりがスムーズでなくなる。「新情報」を文末に置くことを「文末焦点 (end-focus)」とも言う。

⑦ **There is only one left.** (72) の英文構造を説明しなさい。

【解説】Only one is left. (一つだけ残されている→残っている) ということもできるが、only one という「新情報」が文頭にきており、唐突感がある。文頭に来るのを避けるため、意味をもたない虚辞の There を文頭に置き、There is only one left. としたもの。同様に、以下の左にある英文は一般的に避けられ、右の英文を使う。

A library is in my town. → There is a library in my town.

A girl is reading on the bench. → There is a girl reading on the bench.

3.2 名詞構文

⑧ ability の形容詞形は何か。また、the ability to provide... を形容詞形を使って書き換えなさい。

- ・ ..., he knew he had the ability to provide better service. (18)
→ he was able to provide better service

⑨ exploration of previously unspoiled territory の of の働きを説明しなさい。

- ・ ..., governments are under pressure to allow exploration of previously unspoiled territory. (20) → explore previously unspoiled territory

⑩ the constant presence of trash の of の働きを説明しなさい。

- ・ And the constant presence of trash as meals let them (= black bears) adapt easily to life in the city. (80) → trash is constantly present as meals

【解説】高校になり、だんだんと抽象名詞を利用した名詞表現が多用されることになる。抽象名詞のもとになった形容詞や動詞を利用して「名詞表現」を「動詞的な表現」にパラフレーズすることで高校生も文意がとりやすくなる。前置詞 of の働きとして、「A of B」で「BをAすること」(目的語の関係)や「BがAすること」(主語の関係)という意味を表すことを例文を通して体得したい。江川 (1993) は、「大切なのは、『名詞構文の名詞はその周辺の語句を含めて、実質的には1つの文に相当する』という認識を持つ

ことである。そしてその認識を英語を読むときと書くときに大いに活用していただきたい。それが私の念願である」と述べている。(p. 36)

4. 発音, 音声指導について

大学時代に英語音声学 (English phonetics) に関する知識をしっかりと身につけ、その知識を活用しながら英語を聞きとり、正確に発音する力を習得しておきたい。そして、その力を土台にして高校生相手に英語を聞きとるコツを伝えたり、正確にかつ滑らかに発音できる方法を教室内で示せるようにしたい。

① solar panel は「パネル」ではなく、「パヌ」のように聞こえるがなぜだろうか。

【解説】l の発音には 2 種類あり、「明るい l」(clear l) と「暗い l」(dark l) があり、アメリカ英語ではすべて後者であるといわれるが、イギリス英語では語末や子音の前では「暗い l」が使われ、それ以外の場所では「明るい l」が使われる。私の経験では、日本の高校生に教える場合は、2 種類の l の区別をさせた方が効果的である。panel では語末に l があるため、「暗い l」となり、「ウ」に近い響きになる。

② laundry を発音しなさい。なぜ、そのような発音になるのか。

【解説】au は [ɔ:] と発音するのが原則。sauce /sɔ:s/, daughter /dɔ:tər/ のような既習語でほとんどの生徒が知っている語を読ませ、それを手がかりに新語の laundry /lɔ:ndri/ を読ませるとよい。日本語のカタカナ「ランドリー」に影響されないように注意したい。

③ surface と face の発音の違いについて説明しなさい。

【解説】強音節では face は /feɪs/ となるが、surface では第 1 音節に強勢が置かれ、-face は弱音節になるため、/sə:rfəs/ という発音になる。このように、同じ綴り字でも現れる音節によって発音が大きく変わることにも注意する。また、弱音節に現れる /ə/ (schwa) を弱くあいまいに発音することによって英語特有の強弱のリズムが生み出されるため、/ə/ の習得はきわめて重要である。

④ ability, career, operate, characteristic, technology の (第一) 強勢の位置について説明しなさい。

【解説】高校段階では接尾辞の指導とタイアップしながら、単語の第一強勢の位置を見きわめていく力をつけることが必要となる。接尾辞によって、①二つ前の音節に第一強勢が置かれ、それ自身には第二強勢が置かれる (例: op・er・ate), ②直前の音節に第一強勢が置かれる (例: char・ac・ter・is・tic, a・bil・i・ty), ③その音節に第一強勢が置かれる (例: ca・reer, tech・nol・o・gy), といったルールがある。こうしたルールに該当する語が数語既出となったところで、帰納的にルールとしてまとめていくことで生徒が自力で未知語を音声化する助けとなる。教師が教えていく段階から、授業内で確認したルールを使って生徒が新出語を音声化する手助けをする方向性をめざしたい。

5. おわりに

中高の英語教員になるためには、さまざまな力が必要であるが、やはり「英語教授力」と「英語力」の2つが最重要であると考えられる。前者は「英語科教育法」などの授業で模擬授業を繰り返すことで高めていくことが可能であるが、十分な「英語力」がないと英語を使って授業を設計・運営していくことは困難である。いわば、「英語力」が「英語教授力」を支える根幹となっている。今回の「教職基礎研究」の授業で取り組んできた英語についての基礎知識と技能、なかでも語彙・文法・発音の力を伸長する取り組みは、その入口にすぎないが、授業で得られたことをもとにしてより太い根と幹を育てる努力を継続していてもらいたい。

謝辞

今年度、「教職基礎研究」の授業を担当する機会を与えて下さった英語英文学科の久保野雅史教授に心より感謝申し上げます。

【参考文献】

Swan, Michael (2017) *Practical English Usage*, 4th edition Oxford University Press (PEU)

安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』 開拓社

岩崎春雄, 忍足欣四郎, 小島義郎 (1988) 『現代人のための英語の常識百科』 研究社出版

上田明子, 北村宗彬, 隈部直光, 森住衛, 若林俊輔 (1983) 『英語基本語彙辞事典—3000語の背景—』 中教出版

江川泰一郎 (1993) 『英文法解説』 金子書房

柏野健次 (2010) 『英語語法レファレンス』 三省堂

デニス・キーン, 松浪有 (1969) 『英文法の問題点—英語の感覚』 研究社

中邑光男 (2019) 『アクシスジーニアス英和辞典』 大修館書店

西川盛雄 (2021) 『接辞から見た英語 語彙力向上をめざして』 ひつじ書房

文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年度告示) 解説 外国語編』 開隆堂出版

OALD : *Oxford Advanced Learner's Dictionary*

LDOCE : *Longman Dictionary of Contemporary English*

『英検 2 級 文で覚える単熟語 [三訂版]』 旺文社 2013